

## 平成21年度第3回日本粘土学会常務委員会議事録

日 時：平成21年7月25日(土) 13:00~15:00

会 場：東京工業大学田町キャンパス キャンパスイノベーションセンター8階 806号室

出席者(順不同, 敬称略)：

岡田(清), 井上, 山田, 成田, 會澤, 鈴木(正), 岡田(友), 亀島, 八田, 土信田, 田村(記)

### 1. 審議事項

- (1) 第53回粘土科学討論会について：會澤委員より進捗状況(別紙)の説明があった。
  - ・懇親会の申込案内を、メールおよびHPで行う。
  - ・総会委任状：次号粘土科学および当日受付で配布する。
  - ・今回から発表者が持参のPCをつないで発表する形式とした。変更案内をメールおよびHPで行う。
  - ・登録費は、講演予稿集代と参加費の合計金額として掲示する。予稿集印刷費を負担するLOC側への会計上の援助のため。
- (2) シンポジウムについて：岡田(友)委員より準備の進捗状況と新規事項への対応について説明があり(別紙)、以下のような議論が交わされた。
  - ・今回はシンポジウムの内容(シンポジウム特集の論文)が次号粘土科学に掲載される。従って、会員には事務局よりメールおよびHPにて直前に案内(粘土科学の持参のお願い)を出して注意を促す。
  - ・新規参加者のために次号粘土科学(¥2,000)を受付に用意する。
  - ・昨年同様、登壇者へは記念品(タテ)を贈呈する。
- (3) 提案型セッションについて：鈴木(正)委員より以下のように説明があり、原案の通り進めることで評議員会に諮ることとした(別紙)。
  - ・二日目にA, B二会場にてほぼ同時に開催予定。
  - ・A会場：粘土を主成分にする自立膜の開発と展開—発表4件
  - ・B会場：層状複水酸化物の様々な機能性について—発表5件
- (4) 次期の粘土科学編集委員長について：篠原也寸志会員(労働安全衛生総合研究所)への交代が提案され、評議員会に諮ることとした
- (5) 『機能性粘土素材の最新動向(仮)』(小川会員監修)への執筆依頼について(宮脇)：「日本粘土学会標準粘土」についての執筆依頼があり、宣伝にもなるので前向きに検討していくこととした。ただし事前に粘土科学にデータ等の公表をする。
- (6) 将来方向WGの活動について：八田委員より経過報告があった(別紙)。

■学会誌について：以下の方向性で答申を出していく旨の議論があり、評議員会で審議することにした。

・和文誌、英文誌とも、実質的に機能する編集作業(雑誌の電子アーカイブ化への対応も含めて)のため、委員長中心型から編集委員中心型(責任編集型)へ移行する。

・英文誌についてはISI掲載雑誌としての登録と、Impact factorを意識した国際的な研究論文誌を目指すため、国内から選出された編集委員で構成されるワーキンググループで登録のための作業内容と作業工程を策定して作業を開始する。4冊/年、期日を守ることが必要要件であり、2年以上の継続的な活動が必要である。

・これに伴い和文誌は年2冊発行とする。和文投稿の希望者への配慮などサービス低下にならないようにする。

■討論会について：以下の方向性で答申を出していく旨の議論があり、評議員会で審議することにした。

・平成22年秋に開催する討論会より、LOCと密に連携するプログラム委員会を設置し、魅力ある討論会の企画運営に努める。

・平成22年秋に開催する討論会より、既存のシンポジウム・企画型セッションだけでなく、通常の講演にも積極的に関連分野の優秀な研究者・技術者を招待するなどの策を講じ、討論会をより活発なものにする。

・Asian Clayのようなアジア地区中心の国際的なカンファレンスの定期開催を検討するWGを立ち上げる(委員長：会長)。

・Asian Clayの開催には、近隣のアジア諸国との連携が必須であることから、平成22年度の討論会前後に関係者を日本に招待してワークショップを開催する。そのための予算措置を講ずる必要がある。

(7) JST電子アーカイブ化(山田)：JSTと調整を進めている(メール審議済)。詳細が決定したら改めて報告する予定である。今後はJ-stageを用いた論文投稿・査読システムへの移行を検討していきたい。

(8) その他：特になし

### 2. 協議事項

(1) 平成21年度日本粘土学会賞等の選考：以下のような選考結果の報告があった。

学会賞：成田栄一 会員

功績賞(2名)：後藤義昭 会員 及び鈴木啓三 会員

奨励賞：高木慎介 会員

技術賞(2名)：福垣内暁 会員 及び 秦英夫 会員

論文賞(2編)：

1) Development and evaluation of novel radical-trapping sheets composed mainly of clay”, Kazunori Kawasaki, Kazuhisa Sakakibara, Fujio Mizukami and Takeo Ebina, Clay Science, 13(6), 217-224 (2008),

2) 粒子間相互作用が希薄な粘土コロイド分散系の粘度に及ぼす影響, 中石克也, 大井節男, 栗原陽雄,

粘土科学, 第47巻, 第1号, 2008年 p19-24.

- (2) 平成21年度日本粘土学会学術振興基金賞の選考: 以下の2名が選考された.  
 千野大輔 (北海道大学大学院工学研究科環境循環システム専攻修士2年)  
 鈴木康孝 (山口大学大学院医学系研究科博士後期課程1年)  
 会議名称: 14th International Clay Conference (Italy), 2009年6月14-20日  
 (3) その他: 特になし

### 3. その他

- (1) 2010-Trilateral Meeting on Clays について: 1<sup>st</sup> circular の案内があった. 若手研究者の積極的な参加を望みたいという意見があった.  
 (2) 日本学術会議協力学術研究団体への移行申請: 当学会の移行手続きが終了した.  
 (3) 法人化について (久保監査役からの指摘): 会則・規則の見直し, 整備が必要であり, 現状すぐに対応することは難しい. 粘土学会は収入規模も小さいので暫く動向を見守ることとした.  
 (4) その他: 特になし

### 平成21年度第3回日本粘土学会評議員会議事録

日 時: 平成21年7月25日(土) 15:00~17:00

会 場: 東京工業大学田町キャンパス キャンパスイノベーションセンター8階 806号室

出席者 (順不同, 敬称略):

岡田 (清), 井伊, 井上, 上原 (元), 黒田, 小暮, 佐藤 (久), 鈴木 (憲), 鈴木 (正), 渡村, 成田, 西浜, 八田, 日比野, 福嶋, 宮脇, 山田, 岡田 (友), 會澤, 亀島, 土信田, 田村 (記)

#### 1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況 (山田): 第48巻2号は8月10日発行予定である.  
 (2) Clay Science の発行・編集状況 (成田): Vol.13 No.6, Vol.14 No.1, Vol.14 No.2 (次号, 8月) の発行報告があった. また, Vol.14 No.3への投稿要請があった.  
 (3) 会計 (土信田): 中間収支状況 (別紙) の報告があった.  
 (4) 企画: 標準粘土 (宮脇) - これまで20件の依頼があった.  
 ホームページ-特になし  
 (5) 庶務 (土信田): 会員の動向に関して報告があった (別紙).  
 (6) 連合等 (鈴木正): メール審議にて地球惑星会員費として¥10,000の支出が決定した. 山崎会員が窓口

となる.

- (7) 事務局 (土信田): 協賛8件, 共催1件あった (別紙).  
 (8) その他 (山田):  
 ・ICCの際のアブストラクト集, プロシーディングについては必要部数を保管し, 残りは廃棄することにした.  
 ・粘土ハンドブック: 出版社より献本 (10冊) があり, 編集委員長, 編集幹事に配布した.

#### 2. 審議事項

- (1) 第53回粘土科学討論会について: 會澤委員より以下のような進捗状況と予定について説明があり, 承認された (別紙).  
 ・懇親会の申込案内を, メールおよびHPで行う.  
 ・総会委任状: 次号粘土科学および当日受付で配布する.  
 ・今回から発表者が持参のPCをつないで発表する形式とした. 変更案内をメールおよびHPで行う. 予備のPCは用意しておく.  
 ・登録費は, 講演予稿集代と参加費の合計金額として掲示する. 予稿集印刷費を負担するLOC側への会計上の援助のため.  
 (2) シンポジウムについて: 岡田 (友) 委員より進捗状況, 注意事項, 及びその対応について説明があり, 承認された (別紙).  
 ・今回はシンポジウムの内容 (シンポジウム特集の論文) が次号粘土科学に掲載される. 従って, 会員には事務局よりメールおよびHPにて直前に案内 (粘土科学の持参のお願い) を出して注意を促す.  
 ・新規参加者のために次号粘土科学 (¥2,000) を受付に用意する.  
 ・昨年同様, 登壇者へは記念品 (タテ) を贈呈する.  
 (3) 提案型セッションについて: 鈴木 (正) 委員より以下のように説明があり, 原案の通り進めることで承認された (別紙).  
 ・二日目にA, B二会場にてほぼ同時に開催予定.  
 ・A会場: 粘土を主成分にする自立膜の開発と展開 - 発表4件  
 ・B会場: 層状複水酸化物の様々な機能性について - 発表5件  
 ◎両方聞きたい人もいるかもしれないという意見もあり, スケジューリングについては今後の課題とすることとした.  
 (4) 第54回粘土科学討論会について: 鈴木 (憲) 委員より開催場所と日程についての説明があった. 次回の評議員会で日程を決定することとした.  
 ・開催場所: 名古屋大学 IB 電子情報館  
 ・開催日程: 現在2010年9月6日~9月8日, 及び9月13日~9月17日で会場の仮予約をしている.  
 (5) 次期の粘土科学編集委員長について: 篠原也寸志会員 (労働安全衛生総合研究所) へ交代が提案され,